

特集

褥瘡予防の

現場から

主に、神経難病や重度意識障害のある患者さんが入院されている特殊疾患療養病棟。現在40名が入院される中、12名の患者さんが人工呼吸器を装着されています。気管切開や胃瘻造設などでほとんどの患者さんが寝たきりでいらつしやるため、医師との協力のもと、症状の緩和と合併症の予防に努め、患者さんの苦痛を軽減する看護を中心に頑張っています。その中でも特に苦戦しているものの一つが「褥瘡」です。

褥瘡予防として、2〜3時間おきの体位交換を行い、除圧のために医療用マットレスを使用しています。このマットレスを使用することで体圧を分散でき、摩擦係数を低くすることができ、同時に、このマットレスの表面はウレタン製であるため、汚れを拭き取ることができ、保清にも役立っています。

また、週1、2回の入浴を出来る限り心がけており、呼吸器を装着されている患者さんには、アンビューバックで呼吸を補助しながら入浴していただいております。

褥瘡ができてしまった患者さんには、栄養状態・検査データ・心身の状態などから褥瘡診療計画書を作成し、その計画書に基づいた看護と処置を行っています。

複雑で、体力もいる仕事ではありません。



特殊療養病棟のスタッフ

ですが、患者さんが快適に、安心して療養できる環境作りを常に心がけています。少しでも家庭的な温もりを感じていただけるよう模索しながら、これからも前進していきたいと思っております。

「褥瘡」とは?

いわゆる「床ずれ」のことです。長期間寝たきりになっている患者様の臀部や足に多く認められる症状です。体の一部に長時間圧力が加わることで、血液循環が悪くなります。その結果、皮膚組織が酸素や栄養不足の状態になり、壊死をおこした状態を指します。



病棟紹介 医療療養病棟

とパワーあふれる笑顔が魅力

皆さんこんにちは。医療療養病棟(3階、30床)は、治療後のスムーズな家庭生活復帰を目指して、入院生活の手助けをしています。若いスタッフが多く、パワーと笑顔で活気に満ちあふれています。

「患者さんそれぞれの人間性や価値観を大切に、患者さん本来の力を引き出す看護を」その人がその人らしい、自立した生活を送れるように「入院以前の生活を取り戻せるように」が目標です。

食事は、他の患者さんと一緒に音楽を聞きながら、出来る限り自分で食べていただくようにしており、スタッフは声かけなどでサポートしています。リハビリは、自立を目指し、日常生活に沿ったものになっています。また、ベッドから離れてスタッフと楽しく会話をしたり、散歩をしたり、レクリエーション活動も活発に行っています。

そんな患者さんとの会話の中で、勉強させられることも多くあります。一人でも多くの患者さんが元気に笑顔でご家庭にお帰りになれるように、今後もスタッフ一同協力していきたいと思っております。

通所リハビリテーション日記



笑う門には福来る

利用者の皆さんに「今日はどうでしたか?」と尋ねると、大勢の方が「楽しかった!」と笑顔で答えてくれます。

皆さんは、笑顔の効用をご存知ですか? 笑顔がある環境は、心だけでなく身体にも良い影響をもたらすと考えられています。

「笑い」は脳の脳皮質から発生します。脳皮質は使うほど活性化し、使わなければ退化していきます。「笑い」で脳皮質を活性化させることにより、脳の血液循環が良くなり、痴呆と関係が深い前頭葉を刺激するため、ボケ防止の効果が得られます。常に何か楽しいことを探すことが、脳皮質を退化させないための有効な方法だと言えるでしょう。

また、「笑うときに使う筋肉の動きが首や肩のコリを改善する」「笑うことで副交感神経の働きが活発になり、血圧が落ち着く」というように「笑い」には様々な効能があるとされています。

更に、笑うことは、自分自身だけでなく周りの人も楽しい気分させてくれます。たくさんの「笑い」を日常に取り入れ、楽しい毎日を送りましょう。

トピックス

年齢に合った食生活のススメ

年を重ねるに従い、噛む力や嚥下力の低下など、様々な摂食障害が起きてきます。

そのため、高齢者向けの食事には、細かく刻んだり、ミキサーですりつぶしたものが良いと思われがちですが、実際には食べ辛く、見た目も良くありません。それでは、どのような食事が良いのでしょうか。高齢者向けの食事の条件として、一般的には次のようなことが挙げられます。

- 適当な粘度があるもの
- 舌で押しつぶせる硬さであるもの
- すべりが良いもの



お花見弁当

- 肉団子
- 豆腐団子
- 湯葉ひろうす
- えんどう
- 人参
- トマト
- 厚焼き卵

嚥下力とは? 飲み込んだものを食道へ押し下げるときに使うのどや舌の付け根の筋力のこと。

つまり、飲み込みやすさが大事なのです。そのためには、軟らかく調理することがポイントです。特に、水分でむせてしまう場合には、でん粉やゼラチンなどで食品にトロミをつける工夫をしています。また、最も飲み込みやすいとされているのが「ゼラチンゼリー(ゼラチン濃度1.6%)」です。このゼリーには、食後の残留物を除去してくれるという働きがあります。

高齢者の方々は、一回に食べられる量が年齢とともに減っていきまます。そのため、少量でも栄養価の高い食べ物を食べ、必要な栄養素を確保していくことを心掛けてください。

診療連携室

誕生

病院間の橋渡し役となり、転院して来られる患者さんのお手伝いをさせていただくのが、私たち「診療連携室」です。

患者さんやご家族の皆さんに安心して治療を受けていただくために、病院の概要や入院費などについても事前にご説明いたします。遠慮なく、お申し付けください。

また、万全の体制でお迎えするために、これまでの経過や現在の病状などをより正確に把握したいと考えています。そのため、各医療機関の連携室などを通じ、綿密な調整を行っています。必要であれば、担当医



弥永さん

藤さん

や病棟看護師に直接連絡を取らせていただいております。

転院だけでなく、在宅療養中の方が一時的に入院される場合やショートステイを利用される場合にも連携室でサポートいたします。

地域に根ざした病院であるために、皆さんのご要望に的確にお応えしていきたいと思っております。ご不明な点などございましたら、お気軽にお尋ねください。

理念 誠意・信頼・安心

- 基本方針
- 1・患者さんの意志と権利を尊重した医療の提供
 - 2・患者さんと医療情報を共有し、患者さん本位の誠実な医療の推進
 - 3・質の高い医療を提供するために職員の教育・設備の安全・保守管理の徹底
 - 4・患者さんが継続して、一貫した受診が出来るよう地域医療機関との緊密な連携